

岩手西北医師会 医報



庭に咲いたクレマチス／撮影：森 茂雄 先生

目次
CONTENTS

巻頭言 岩手西北医師会 会長 高橋 邦尚	1
理事会議事録	2
総会議事録	6
岩手西北医師会事業計画	10
各種行事報告	11
仲間便り	18
医師会医報バックナンバー	23
会員の入会・退会・異動等	38

巻 頭 言



ひきしめる

一般社団法人岩手西北医師会 会長 高橋 邦 尚

岩手西北医師会は、ここ数年認知症と在宅医療を2本の柱として、各種の活動を鋭意押し進めている。

在宅医療に関して言えば、往診を専門としない一般開業医が、土日及び休祭日だけを当番制で助け合いながら地域の在宅医療を行なっている。担当する患者の数は多くは望めないが、長年自分が外来でつきあってきた患者は責任をもって看取りまで行なおうとする試みである。このシステムを私は“なんちゃって在宅”と名付け、地域の病院、及び包括支援センターと密に連絡を取り合いながら着々と実績を挙げつつある。

一方認知症事業に対しては、会員諸氏が御存知のように紺野先生が各地で精力的に講演会を行い、岩手西北医師会の枠を越えて行政・会員のみならず多数の一般住民の支持を得ている。

当医師会の歴史において、岩手町の大腸癌検診事業を除いては、これほどまで多くの行政機関や地域住民を巻き込んでの広域活動は類がない。

岩手西北医師会がこれら事業を始めて後数年してから国は、在宅医療に関しては『地域包括支援ネットワーク』を打ち出し、認知症に対しては『オレンジプラン』を公表した。我々の事業が、国の政策より先行して始められたことを自慢するつもりはない。ただ思いがけず、二事業とも行政の後押しを受けることになった。

一般的に公約・私的を問わずどんな事業でも新たな事業を押し進めようとした時、同じベクトルの方向を向くある種の“風”が吹いてくるものらしい。行政からの助成、補助の類とそれに連なるあらゆる業種との係わりである。事業の中心となるリーダー達が、大小の講演会や会合に引っ張り出され、やがて地方のマスコミに何度か新聞等に取り上げ紹介されることで、次第に本来の立場・使命を忘れてある種の自己陶醉に陥っていく。これらの浮かれた状況が数年続いた後、事業が始める前と何の変化ももたらすことなく終了してしまったり、大きな借財を残した事業例は枚挙にいとまがない。これは、私個人に対する自戒でもある。

さて、我々の事業がそうならない為には何が必要だろうか？

第一に必要なのは、私共の事業の対象はすべて地域の住民、患者であることを忘れないことである。助成、補助を含めたすべての支援は、地域住民と患者の為に向けられるべきであり、それ以外のものではないことを心に常にとどめておくことである。

第二に自分達を自ら律することを堅持することである。

従来の地味な事業がおざりにされ、新しい事業のみが、外部からほめそやされることに満足することは断じてあってはならないと考える。これに気付かなければ、事業は必ず支持を失って行くことになろう。気持ちを常に引き締めながら岩手西北医師会は、これらの事業を地に足がついたものとして成就したい。

— 理 事 会 議 事 録 —

平成27年度 一般社団法人岩手西北医師会第1回理事会

日 時：平成27年5月20日(水)

19：00～20：20

場 所：岩手西北医師会 事務所

(滝沢市土沢558)

出席者：

及川忠人参与、高橋邦尚会長、柄内秀彦副会長、紺野敏昭副会長、高橋真総務理事、植田修総務理事、篠村達雅理事、佐々木久夫理事、森 茂雄理事、高橋明理事、北上明理事、立本仁理事、西島康之監事、金井猛監事、遠藤公認会計士、事務局近谷正広

認したほうがよいと思う。と話があり会場も確認して試してみるべきという意見で医師会として確認することにした。

西島監事より町立病院に勤務の医師の入会はどうなっているかと質問があった。

会場よりできれば未加入の勤務の医師にも入会頂けるようにはたらきかければいいのかと話があった。

佐々木久夫理事より各地域の病院やばあいにより首長へ入会の説明と依頼をしたほうがよいと話があり医師会として連絡をとることにした。

1. 開会・会長挨拶 会長 高橋 邦尚

決算などのため遠藤公認会計士さんにもお越しいただいております。総会に向け皆さまのご意見をお願いしますと述べた。

会長が議長をすることを満場一致で了承し議事に入った。

2. 報告事項

1. 入会、退会の状況について議長より事務局へ報告を求めた。

近谷事務局長が岩手西北医師会の会員の入退会の状況を資料を元に説明し報告した。

4月に開業したものがたり診療所つむぎ(松嶋恵理子先生)が入会し八幡平市に開業した件を同地区の森茂雄理事、及川忠人参与より話があった。

週2回の半日づつの診療で休日当番医をどうするかと議長より会場に諮ると紺野副会長より本人に当番医への参加の意思を確

2. 岩手西北医師会認知症ネットワークについて

議長より紺野副会長に現状の報告と説明を求めた。紺野副会長より岩手市北医師会認知症ネットワークの活動の報告と7月11日に八幡平市での認知症の研修会を開催する件について資料を元に説明し研修会への参加を求めた。映像を使つての研修内容は大変好評で他市町村からも研修の依頼がある。

会場の皆さまもご本人、スタッフなどと参加いただけるよう話をした。

3. 在宅ボックス滝沢について(医療、介護連携事業)

会長より昨年、理事会と総会で報告、説明し承諾いただき滝沢市、岩手県から医療法人ゆとりが丘クリニックが助成を受けている医療介護連携事業についての平成26年度の活動内容と27年度の計画を報告した。

3. 協議事項

(1) 平成26年度事業報告について議長より事務局へ説明を求めた。

近谷事務局長より資料を元に平成26年の事業報告をした。全員より了承を得た。

事業報告をした事業や会議のほとんどに会長が参加しておりこの資料にない会議や委員会などにも出席いただいていますと話が合った。

高橋会長より及川前会長の大変さが分かりました、いろいろな会や事業に参加させていただき気づかされることもあり勉強させていただいていると話が合った。

(2) 岩手西北医師会平成27年度事業計画案について

議長より事務局へ説明を求めた。

近谷事務局長より資料を元に平成27年度事業計画について説明をした。

議長が事務局より出された事業計画でよいか会場に諮ったところ了承された。

議長より今年度の事業計画はどうしても行わなければならないものをあげたが会員よりこの様な事業を行いたいということがあれば場合によっては今年度行うことも可能かもしれない、やりたいことがありましたらどしどし連絡くださいと話をした。

(3) 岩手西北医師会 平成26年度補正予算について

遠藤公認会計士より補正予算の資料を説明した。

(4) 岩手西北医師会 平成26年度決算案について

遠藤公認会計士より決算の資料を説明した。

(5) 岩手西北医師会平成27年度予算案について

遠藤公認会計士より3月に会長より示された予算の資料を説明した。

県医師会のゴルフ大会以外は平成26年度とほぼ同じ事業計画が示されたので予算もほぼ同額としていると説明があった。

議長より協議事項の(3)、(4)、(5)をまとめて遠藤公認会計士さんより説明を受けたが質疑などないか確認をした。

公益支出財産は予定通り使われているかと質問があり、遠藤公認会計士よりほぼ予定通りですがもう少し支出をしてもいいかもしれないと話が合った。

収支のバランスについてはいかがかと話があり遠藤公認会計士よりゴルフ大会の支出を除きますとほぼバランスはとれていると思いますと話があった。

議長より協議事項(3)岩手西北医師会 平成26年度補正予算、(4)岩手西北医師会 平成26年度決算案について、(5)岩手西北医師会平成27年度予算案について承認いただけるかと諮ったところ満場一致で承認された。

(6) 岩手西北医師会の総会（5月30日）進行について

議長より進行案の資料を説明し、協議に



入った。総会の次第、スケジュール、担当について話し合われた。

総会の司会等を高橋真総務理事、特別講演の司会を植田総務理事、座長を紺野副会長、懇親会の司会等を北上明理事、乾杯を久保谷副会長、アトラクションを北上翔南高校の鬼剣舞とすることにした。

(7) 会費について

岩手西北医師会 高齢者免除について議長より本医師会、県医師会は高齢者会費免除があるが郡市医師会の我々岩手西北医師会はどうするか。日本医師会は会員が多い、県医師会は少しだが入会が上回っているが郡市医師会単位では会員数が減っているところもあり会費の高齢免除をすると事務局運営が厳しくなるところもある。当医師会はどう考えるべきかと議長が述べた。事務局より全ての県内の郡市医師会に確認はしていないが免除していない郡市医師会もあるようですと話があった。紺野副会長が免除対象になった時点で医療行為をしているかなど当事者のそれぞれの状況によりこの場では免除するとかしないとは言えないのではないかと意見を述べた。その後話し合ったが今回の結論ではなくもう少し話し合いが必要であるということで一致した。

(8) 岩手西北医師会学校保健部会について

岩手地区学校保健会の役員（副会長1名、理事2名）の平成27年度の推薦について議長より現状をのべ27年度役員の推薦について協議を求めた。

協議の結果、岩手地区学校保健会の副会長を北上明先生、理事に金井先生、小豆嶋先生はいかがかということになり会場の参加していた北上先生、金井先生より承認を

得た。

小豆嶋先生へは了承いただけるか連絡確認することにした。

岩手西北医師会の学校医部会の責任者（理事）現在は山口先生です

山口先生は岩手地区学校保健会副会長、岩手西北医師会の学校保健部会に責任者を多忙なため、どなたか引き受けていただきたいとのことです。

金井監事より岩手地区学校保健会の副会長をしていた時の感想を学校保健全体の見える小児科の先生が望ましいと思うと述べた。

議長より学校検診で運動器の検診も入ってくるようですが整形外科での話をお聞かせくださいと立本理事に意見を求めた。立本理事より検診が始まるようですが誰がどのようなところなど詳細についてはまだ知らされていません。検診内容によっては大変時間がかかり一人の整形外科医で行なえる人数に限度あると話した。事務局より以前久保谷副会長が場合により養護教員や保健室の先生のお力をお借りすることも必要かもしれないと話していたと述べた。情報が入り次第関係の方々へ連絡することにした。

4. その他

1. 野球大会について

議長より以前野球大会参加で前向きに考えようと話し合われたがいろいろな先生へ野球の練習や大会参加の声をかけたが実際プレーいただける方が少なくチームとして成立せずケガのことをお話しする方もおり話し合いの結果野球大会参加は辞退することにした。

県医師会より野球大会後のジャンケン大

会だけでも参加してほしいということでジャンケン大会に参加したが野球大会にプレー参加しているチームよりジャンケン大会会場 でプレーしないでジャンケン大会だけで出るのかと言われ気持ちのいいものではなかったと話が合った。

議長より岩手西北医師会内でやりやすい、愛好者いるスポーツで楽しみ、大会があれば参加できるスポーツ例えばゴルフなども一つではないかと話が合った。岩手西北医師会チームとして活動するのであれば何らかの支援も考えていいと思うと述べた。

2. デモ用 AEDについて

議長より7月に雫石町の小学校で医師会としてAEDを使った講習会を予定しており練習用のトレーナー機の購入についてAEDの添付資料を説明した。篠村理事より研修の予定について内容の説明があった。

議長より会場へトレーナー機器の購入について話したところ全一致で承諾された。

3. 岩手西北医師会次期体制について

議長より会長職の現状について話をした。



現在2期目で4年目となっている2期満了で次期は新体制と考えている。

役員は選挙ではあるが現理事会の中で次期体制を考えて行かなくてはならない時期であると思っている。事務局のありかたも考えなくてはならない。会員の中で若手の先生を中心にワーキンググループを立ち上げて検討することにした。

5. 閉会

議長より、ここまでの報告、協議事項、その他の中、それ以外も含め質問や意見がないか確認したが特になしとのことで理事会の閉会を告げた。

—— 総 会 議 事 録 ——

平成27年度 一般社団法人岩手西北医師会第1回定時総会

日 時：平成27年5月30日(土)

15：00～16：15

場 所：ホテルメトロポリタンNEW WING

11階 ギャラクシー

司 会：総務理事 高橋 真

高橋邦尚会長 出席いただいたお礼と挨拶を述べた。

会長職を引き受け4年目となりました。これまでの皆様の支援とご協力に感謝いたします。

会長就任時、ある先生より「会長になるんだから何かやりたいことがあるんだろう。それが無いものは会の代表とは言えない。会長らしく何かを思い切りやってみるべきだ。」とお言葉をいただきましたことが思い出されます。

現在、医師会として力を入れている事業は2つあります。紺野先生がリーダーをされている「認知症医療」と私が関わらせていただいている「在宅医療」のネットワークです。

私共がやりたいと思うことをしている中で地元行政や国が遅れて指針をだし結果的に共同で事業をしているところもありますが私共が先駆けであることを自慢するつもりは全くありません。皆様もこういうことが必要だ、こういうことを事業としてやっていきたいということがございましたら是非お知らせください。一緒にやりましょう。

次に運営です。形だけの運営は止めさせていただきます。変更せざるを得ないところもあります。例をあげます。県医師会の野球大会ですが参加に向けて動き出してはおりました。プレイをする人数集めをしておりましたが若い先生の中にはサッカーならともかくキャッチボールさえしたことが無いという状況であり本年度以降も

開会

総務理事高橋 真が平成27年度第1回定時総会の開会を宣言した。

出席者確認

司会者より会員総数平成27年5月25日現在84名中、出席者34名で委任状が41名より届いており合計75名です。よって過半数の42名を満たしており定款19条により本総会は成立したことを確認しますと述べた。引き続き司会者より定款通り議長を会長指名により決めてもらうことを告げた。高橋邦尚会長より篠村達雅先生を議長として指名させていただきますと述べた。会場は拍手で承認した。

議長挨拶

議長の篠村達雅先生より挨拶と議事がスムーズにいくように協力をお願いしたいと述べた。

議事録署名人は議長と会長とした。会場より拍手が多数あった

会長挨拶

議長より会長挨拶として高橋邦尚会長に挨拶を求めた。

不参加とせざるを得ないと考えています。

私案ですが例えばゴルフ大会に力を入れる。我が医師会の北上先生、瀧山先生、前田線先生を中心とする精鋭部隊をつくり、ゴルフなら岩手西北医師会だなどと言われるような実績をあげられるようにしたいと思っています。

次に先輩の先生方長い間続けてこられた岩手西北医師会の学校保健部会、岩手地区学校保健会のあり方を一度根底から考え直していくつもりです。

今後、岩手西北医師会に必要な業務は開業年数、年齢、専門科、地域、さらには理事であるか否かは考慮せず、勤務医の先生も含めて積極的に協力いただきます。岩手西北医師会管内5市町で仕事をしている先生は当医師会に入会していただきます。

議事のその他でも申し上げますが現在の運営に関しご意見、ご叱責は喜んでお受けいたします。私の任期があと何年となるかわかりませんが、今後も私の思うところに従って岩手西北医師会の運営を進めさせていただき決意を申し上げました。

最後に申しあげます。私の暴走を止めるのは今しかありません。是非止めて頂きたい。ご清聴ありがとうございますと述べた。(笑いと拍手)

議長が会場へ会長挨拶にご質問ご意見はありませんかと話したが特になし。

議長が議事を進めた。

第1号議案 平成6年度事業報告の説明を議長が会長代理として近谷正広事務局長に求めた。

近谷正広事務局長が資料を元に報告をした。

議長が第1号議案について質疑を求めたが質問などは無く、議長が承認いただけるかと会場に告げると承認された。

第2号議案 平成27年度事業計画(案)について説明を議長が会長代理として近谷正広事務局長に求めた。近谷正広事務局長が資料を元に説明をした。

議長が第2号議案について質疑を求めたが質問などは無く、議長が承認いただけるかと会場に告げると承認された。

第3号議案 平成26年度岩手西北医師会会計決算案について議長より会長代理として当会顧問の遠藤明哲公認会計士に説明を求めた。遠藤章明公認会計士より資料と提出している決算書を元に説明をした。議長より出席者へ質問、意見がないかを尋ねたが特になし。議長が第3号議案の承認の方は挙手をお願いしますと話す挙手多数で承認された。

議長が監査報告を金井猛監事に求めた。金井猛監事は「監査の結果、会計帳簿、記帳すべき事項を正しく記載し決算書との記載と合致していることを認めます。役員業務執行については、正しく定款に従ってなされており、妥当であると認めます。」と述べた。

第4号議案 平成27年度岩手西北医師会会計予算案について会長の代理として遠藤明哲公認会計士に説明を求めた。遠藤明哲公認会計士より資料を元に説明をした。昨年度はゴルフ大会の幹事でしたが今年度は監事ではなくその分の収支以外のはほぼ前年と同等の予算となっているこ

となど説明をした。

議長より質問、意見がないか問うたところ上原充郎会員より小児の関係、当番医の関係で貯まってきたお金はこの資料のどこに記載になっているか、どのように使っていくのかと質問があった。

資料を元に公益事業と一般会計について遠藤明哲公認会計士と高橋邦尚会長が説明をした。

高橋邦尚会長がつづいて小児科として医師会としてこういう事業をしたいということがありましたらお知らせください。内容により実現できるように検討しできれば実現したいと思っていますと述べた。上原充郎会員よりお金がほしくて話しているのではないどのように振り分けどのように使われるのか確認したかったのである。説明を聞きよく分かりましたと述べた。

議長より他に4号議案について他に質問、意見がないか問うたがなし。

議長より第4号議案の承認の挙手をもとめた挙手多数で承認された。

その他

議長がその他として岩手西北医医師会の会員入会、退会状況について近谷正広事務局長へ説明を求めた。近谷正広事務局長が5月25日現在84名と述べ、平成26年度の入退会の状況を資料を元に説明をした。

議長より今総会に新入会の先生の中でお二人出席いただいているので一言ご挨拶をいただきたいと話した。東八幡平病院の藤澤陽一先生、ものがたり診療所つむぎの院長の松嶋恵理子先生が新入会の挨拶をした。会場は拍手で受け入れた。

議長が平成26年度在宅当番医制委託事業

費の負担金の配布について近谷正広事務局長に報告を求めた。5市町からの金額と当番医負担金として1回1万円として平成26年度の述べ総数を報告した。

議長が岩手西北医師会次期体制について会長に説明を求めた。高橋邦尚会長より来年の3月で任期が丸2期4年となり次期役員と事務局について考えていく時期であると思うと述べた。

副会長、総務理事から医師会の仕事を会長が抱え込まずに役員に情報と仕事を振り分け協力を求めてほしいとお話をいただき、その通りでありがたい。役員の方々が忙しいと思いを使っていた部分もあるが総務会など回数を多く開催し意見を聞き協力いただきながら残された会長職を全うしたい医師会の中で若手と呼ばれる先生方の役員として役員に関わらず参加いただきたいと述べた。

議長より地域担当委員、各委員会について会長に説明を求めた。高橋邦尚会長より委員会、地域担当委員について説明をした。現在、医師会としても大変重要な学校保健の各委員について人選が定まらないところがる。県医師会の常任理事として山口淑子理事が我が医師会推薦で岩手県医師会の中で学校保健の仕事をしていただいているが今までは岩手西北医師会の学校保健のまとめ役というか責任者で、県の学校医の会議の際に岩手西北医師会の代表は兼任でした。それとは別の岩手地区学校保健会の副会長と理事2名が欠員となっています。5市町の岩手地区学校保健会の副会長は今年は今年度の幹事が一方井小学校で岩手町なので岩手町の地域担当委員（理事）で北上明理事にお願いしたい。理事2名のうち

1名は金井猛監事。後の1名は今年度は岩手西北医師会としては空席とすると高橋邦尚会長が述べた。

さて岩手西北医師会の学校保健のまとめ役というか責任者を誰かにお願いしますかと話すと山口淑子理事より上原先生に是非ともお願いしたいと話があった。上原先生より受けるのは難しいと話があり高橋邦尚会長が総務理事のレベル若しくは理事会で検討させてほしいと述べた。

議長がその他としてですがいかがかと会場に問うたところ全員賛成をした。

議長が野球大会について会長に説明を求めた。高橋邦尚会長より会長挨拶でも述べましたが昨年の話して来年は野球大会に参加しようというのでユニフォーム、グローブなども揃え練習をして試合にでようと動きましたが実際プレイできる人数が集まらないのが現状で若い先生は野球はやらないがサッカーやテニス、ゴルフならという方はいました。そこで私見ですがこれはという例えばゴルフに岩手西北医師会は力を入れるなどを考えていきたいと述べた。

議長より岩手西北医師会認知症地域ネットワークの状況の説明を紺野敏昭副会長に求めた。

紺野敏昭副会長よりネットワークの活動の現状と認知症患者の紹介数など資料の具

体的な数字を元に説明をした。7月11日の八幡平市・岩手西北医師会合同認知症研修会についてNHKエンタープライズ社の映像を取り入れての研修会を今年滝沢市で全国で大阪の次で2会場目で行い好評であった。同様な研修会を釜石地区、八戸市などから要請を受けていると報告と説明をした。

議長より在宅医療介護連携について高橋会長に説明を求めた。

高橋邦尚会長より紺野先生のネットワーク、研修会は岩手西北医師会管内はもとより県レベル、全国レベルの素晴らしいものとなっております。私の在宅医療介護連携については滝沢市、雫石町、盛岡市の一部の開業医の先生と連携を組みまた盛岡、滝沢、雫石の入院施設のある医療機関から在宅患者の紹介、バックベツトとしての関係を構築している最中だと説明をした。

議長が今までの中で質問や意見がないか確認をしたが特になしの声

議長より皆様のご協力により無事に議案、議事をすすめることができたお礼を述べ議長席より会場へ戻った。

閉会

午後4時15分司会者の高橋真総務理事が閉会の挨拶を述べ総会を閉会した

懇親会（鬼剣舞）

岩手県立北上翔南高等学校 鬼剣舞部 顧問 高橋樹久様と部員（生徒）20名。

岩手西北医師会定時総会の懇親会で御校の鬼剣舞部の皆さまに演舞いただきました。

演舞、掛け声、太鼓笛、そして演舞後の挨拶に会員、全員感動しました。



平成27年度 一般社団法人岩手西北医師会 事業計画

月	日	事業	備考
4月		理事会	岩手西北医師会事務所
	17日	学術講演会	ヤンセン メトロポリタン
5月	20日	理事会	総会前
	30日	岩手西北医師会通常総会	
		学校部会	
		広報委員会	
6月		学校部会	
		総務会	
7月	1日	認知症カンファランス	岩手西北医師会
	11日	認知症ネットワーク研修会	八幡平ロイヤルホテル
		地域担当委員会	
		救急蘇生法講習会	雫石町 セツ森小学校 (予定)
		学術講演会	
	15日	会員 健診 医師国保	滝沢市公民館 6時～8時30分
	29日	会員 健診 医師国保	八幡平市市民センター 6時～8時30分
8月		学術講演会	
	23日	岩手県医師会野球大会	盛岡繋温泉紫苑 ジャンケン大会13時～
9月		救急蘇生法講習会	
		防災訓練	
		認知症ネットワーク 研修	
		岩手県医師会親睦ゴルフ大会	宮古カントリークラブ
10月		理事会	
		岩手郡医師会 産業医研修	
		広報委員会	
11月		糖尿病推進会議	
		歯科医師会との合同研修	
12月		自殺予防 雫石町	
1月		岩手県医師会新年交賀会	
2月		かかりつけ医認知症研修	
3月		理事会	

各種行事報告

岩手西北医師会糖尿病対策推進会議 学術講演会

- 日 時：平成27年 5月12日(火)
18:50~20:35
- 場 所：ホテルメトロポリタン盛岡
NEW WING
4F「メトロポリタンホール東」

製品説明「グラクティブ錠」

小野薬品工業株式会社

教育講演 座長：木村内科クリニック院長
木村 秀孝 先生

『糖尿病患者への栄養指導の実際』

岩手医科大学附属病院 栄養部
主任栄養士 俵 万里子 先生

特別講演 座長：滝沢中央病院副院長
大川原 真澄 先生

『経口血糖降下薬の選択はどのように
決定されるのか～臨床医からの提言～』

太田総合病院附属太田西ノ内病院
糖尿病センター内科

次長 山崎 俊朗 先生

閉会の辞

こんの神経内科・脳神経外科クリニック
院長 紺野 敏昭 先生

出席者

医 師	27名
看護師	18名
薬剤師	56名
その他	9名
	3名
計	113名

要旨

《教育講演》

『糖尿病患者への栄養指導の実際』

座長：木村内科クリニック 院長

木村 秀孝 先生

演者：岩手医科大学附属病院 栄養部

主任栄養士 俵 万里子 先生

当院の指導は大きく分けて個人指導と集団指導に分かれる。

- ① 個人指導（1回130点）…外来：診察日に合わせて実施する。採血・採尿後、栄養指導を実施し、その後診察。初回指導は30分程度、継続指導は15～30分である。

入院中は入院期間中に2回実施する。

- ② 集団指導（1回80点）…対象は入院患者。内容は主に献立の立て方、アルコールについて、菓子・飲料について、外食についてである。

栄養指導の際は1日の栄養摂取目安表を用いながら進めていき、同時に患者には自身の食事記録表をつけてきてもらっている。患者は実際に『書く』ことで自身の食事内容に気づくことも多く、その後の指導もスムーズにいくケースも多い。記録表はその人の主観で書くため実際の摂取量とは異なることもあるが、その際決して咎めることなく、記録をつけてきたことを感謝する事が、その後の患者のモチベーションにもつながっていく。患者さんと栄養士の希望することですれ違うこともあるが、折り合いをつけるためにも患者との『信頼関係』と『交渉力』が重要であると考えている。

《特別講演》

『経口血糖降下薬の選択は
どのように決定されるのか
～臨床医からの提言～』

座長：滝沢中央病院 副院長

大川原 真澄 先生

講師：太田総合病院附属太田西ノ内病院

糖尿病センター内科 次長

山崎 俊朗 先生

数年前までは糖尿病治療に必要な条件として『HbA1cの改善が全て』という考え方があったが、ACCORD試験やDECODE試験といった大規模な臨床試験の結果によって、単純にA1cのみを下げるのではなく『良好な血糖コントロールを維持』することが重要であるという考え方が定着した。ここでいう良好な血糖コントロールとは①低血糖を起こさない、②食後過血糖を改善する、③血糖変動幅を小さくする、④体重を増やさないことである。

糖尿病薬をCPI (CPR INDEX) の観点から分けると以下の通りである。

- 2.0以上 非インスリン分泌促進薬での治療
- 2.0～1.5 OHA (経口糖尿病治療薬) で血糖コントロール可
- 1.5～1.2 OHAでコントロール可能。糖毒性解除目的に一時的にインスリンも可
- 1.2～0.8 OHAでもインスリンでもある程度コントロール可。
ただインスリン治療がベター。
- 0.8以下 インスリンでの治療

もう一つ使い分けの指標となるのはHbA1cの値である。HbA1cが高ければ高

いほど食後血糖より食前血糖の方が優位であることが明らかとなっており、その境目はだいたいHbA1c 8%である。

A1c 8%未満：食後過血糖を改善する薬剤を選択する

A1c 8%以上：食後だけでなく食前血糖も改善する薬剤を選択する

インスリン分泌促進薬は大きく分けて血糖依存性薬剤と血糖非依存性薬剤に分けることができる。

- ・血糖依存性薬剤：DPP4阻害剤・GLP1製剤に食後過血糖を改善する。体重は不変か、減少する。単剤では低血糖のリスクはない。血糖変動幅を改善する。
- ・血糖非依存性薬剤：SU薬・グリニド薬
SU薬は食前血糖の改善効果が強い。グリニド薬は食後過血糖を改善する。低血糖はSU薬あり、グリニドは少ないが稀にみられる。SU薬を使うと体重増加が懸念される。

インスリン非分泌促進薬は3つに分類される。どの薬剤も低血糖は少ない。

- ・ビグアナイド薬：肝臓に作用。食前血糖を改善する力が強い。海外のガイドラインにおいては1st選択薬。血糖変動幅は改善しない。
- ・チアゾリジン薬：骨格筋、脂肪細胞に作用。食後過血糖を改善する力が強い。体重の増加が懸念される。
- ・ α グルコシターゼ阻害薬：小腸に作用。食後過血糖を改善する。体重は減少し、血糖変動幅を改善する。

各薬剤を比較してみると、良好な血糖コントロールが可能なのはDPP4・GLP1と α

-GIの2つであるが、*a* GIの問題点としては1日3回という服薬回数のためコンプライアンスが悪い点である。この点を踏まえると、今現在糖尿病治療薬の中で最も優れているのはDPP4阻害剤であると結論付けることができる。

近年糖尿病患者の平均HbA1cは低下傾向だが、患者のBMIは増加傾向にある。血糖改善だけでなく肥満に対し効果を発揮する薬剤が待たれていた。その中で登場したのがSGLT2阻害剤である。

自験例を紹介すると、フォシーガ投与3日で体重が2kg減った症例があった。In Bodyで体組成を調べてみると、体重減少には水分量と脂肪減少が関わっており、筋肉量には変化がなかった。また他のSGLT2症例で最高33kg減少した症例を経験しているが、こちらも同様に脂肪減少が主に関わっていた。

CGMによる血糖変動をみてみると、食後過血糖の改善がみられたが、空腹時の低血糖は起こらなかった。ビグアナイド、DPP4、インスリン等、どの薬剤と組み合わせても良好な血糖コントロールを得た。

SGLT2阻害剤はDPP4阻害剤と違い、投与症例を精査する必要がある。

適した症例としては、

- ・水分負荷が可能な若年～中年の患者
- ・体重減量が必要な患者
- ・合併症が中程度未満の患者

が考えられる。

八幡平市・岩手西北医師会合同 認知症研修会

- 日 時 平成27年 7月11日(土)
- 会 場 八幡平ロイヤルホテル
- 主 催 八幡平市地域包括支援センター
岩手西北医師会
- 共 催 盛岡北部地域リハビリテーション
広域支援センター、盛岡北部
地区介護保険サービス事業者協
議会、岩手地区介護支援専門員
協議会
- 挨 拶 小林 清功
(八幡平市民副支部長)
高橋 邦尚
(岩手西北医師会 会長)

快晴のお天気にも恵まれ、沢山の方にご参加いただき岩手西北医師会認知症支援地域ネットワーク代表紺野先生を中心に行われた。

岩手西北医師会管内の医師、八幡平市、葛巻町、岩手町、雫石町、滝沢市の関係職員と医療関係者、介護事業関係者、患者本人、患者家族関係者など380名が参加。

講師の先生方には、映像を交えて参加者へ事例や介入前後の効果などを分かりやすく後援をしていただいた。



【午前の部】

「認知症の人と家族の会」の懇談会

【午後の部】

「映像でみる認知症」～「本人」～はじめよう

講師：沖田裕子 氏

(NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター代表)

横川清司 氏

(NHKエンタープライズ)

紺野敏昭 氏

(このの神経内科・脳神経外科クリニック理事長)



横川清司 氏 沖田裕子 氏



紺野敏昭 先生

【ヤマボウシプロジェクト】

会場フロアには、たくさんの方々が支えあい顔の見えるコミュニケーションや連携を図ることができるようにと、木の形をした大きな模造紙の上に承諾を得た方のポラロイド写真とコメントを張り付け展示。

【研修会】

1. 岩手西北医師会認知症支援地域ネットワークの活動状況紹介

紺野敏昭 氏

(岩手西北医師会認知症支援地域ネットワーク代表)

2. 医療介護連携シートの説明と使い方、今後の課題など

森 智美 氏

(滝沢市地域包括支援センター主任保健師)

3. 認知症の人と家族会の内容と体験談の話

田中慶介 氏

(認知症の人と家族会岩手県支部世話人)

■講師プロフィール

沖田 裕子 氏

(NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター代表)

特別養護老人ホームや重度認知症デイケア、認知症介護研究・研修大府センターなどに勤務の後、介護保険などではニーズの満たされない、若年性認知症の人や家族支援などを主に行うために、NPO法人「認知症の人とみんなのサポートセンター」を設立。認知症の本人交流会・意見募集・生きがいつくりなど、仲間と活動している。

神戸大学大学院医学系研究科保健学博士課程後期課程修了

横川 清司 氏

(NHKエンタープライズ)

1971年NHK入局。カメラマンとしてヒューマンドキュメントから海外紀行番組までを担当。また、ディレクター、プロデューサーとして特集番組、映画製作も手掛ける。母親が認知症となり、早期転籍して以来、認知症のフォーラムをプロデュース。全国で開催するなど、認知症の啓発活動を続けている。

自らが認知症になる年齢となり、リタイヤすることで、廃用症候群としての認知機能低下を自らがリポート出来る機会が来ることを願っている。

紺野 敏明 氏

(このの神経内科・脳神経外科クリニック理事長)

1978年岩手医科大学大学院修了。岩手医科大学神経内科学講座歴任局長を経て、1998年より退職。日々、多くの認知症患者を診察している。その他、岩手西北医師会では、認知症支援地域ネットワークの代表として、ネットワークを構築するために普及啓発活動にも積極的に取り組んでいる。また、学術講演会に介護関係者を招くなど、医療介護連携の促進に向けた事業を展開している。



フロア



講演会場



講演会場



ヤマボウシプロジェクト



支え合い 地域変える

八幡平市
と岩手西北
医師会が同
市で11日開
いた合同認
知症研修会
には、医療
関係者や市
民約30
0人が参加
した。認知
症の事例を
映像で見な
がら、サポ
ーターの仕
方や役割、
後援、支援
を通じた
地域づくり
について考
えた。



認知症について事例を通して理解を深めた研修会

八幡平市で
合同研修会
と、認知症関連の番組
制作に携わるNPOエ
ンタープライズの廣川
潤也さんが講師を務め
た。認知症の母と統合失
調症の息子について、
親睦団やケアマネッ
ションから専門家のほか、
地域のNPO法人メン
バーの住民がコミ出し
て支援したり、スーパー
の店員が助けけてい
生活をサポートしてい
る事例を紹介した。

八幡平市で
合同研修会

し合い、会場内からは
「コミ出しの確率」や
「葉を飲んだらどうか
ら」という意見が
出された。
廣川さんは「認知症
は地域の助け、互助の
きっかけを与えている
のではないかと、油田
さんは「認知症を交
えることとが地域が
変わっていく切り口が
ある」と話した。認知
症の人を支えること
に、認知症の人を支える
人の店員が助けけてい
生活をサポートしてい
る事例を紹介した。

岩手日報 (7月15日)

やまぼうしプロジェクト始動

岩手西北医師会地域ネット

認知症の増加が予想され、東北地域の医師や介護関係者らでつくる岩手西北医師会認知症支援地域ネットワークは、認知症の支援者や当事者の顔の見える関係づくりを進める「やまぼうしプロジェクト」を始める。地域に在住一人一人が認知症との関わりを深め、互いを思いやり笑顔で暮らす社会の構築を目指す。

同プロジェクトは理事長の輪の広がりに認知症に関する知識・情報が広がる仕組み、関係者だけでなく、市民などの参加を促す仕組みが特徴。その一環として、認知症の当事者や一般住民を含む研修会などの開催に際し、多くの人が参加。その一環として、認知症の当事者や一般住民を含む研修会などの開催に際し、多くの人が参加。その一環として、認知症の当事者や一般住民を含む研修会などの開催に際し、多くの人が参加。

認知症支援の「木」育て

当事者と社会つなぐ



認知症支援のためにできることを書いて、メッセー지를発信して関係者に伝える「やまぼうしプロジェクト」

認知症の増加が予想され、東北地域の医師や介護関係者らでつくる岩手西北医師会認知症支援地域ネットワークは、認知症の支援者や当事者の顔の見える関係づくりを進める「やまぼうしプロジェクト」を始める。地域に在住一人一人が認知症との関わりを深め、互いを思いやり笑顔で暮らす社会の構築を目指す。

認知症の増加が予想され、東北地域の医師や介護関係者らでつくる岩手西北医師会認知症支援地域ネットワークは、認知症の支援者や当事者の顔の見える関係づくりを進める「やまぼうしプロジェクト」を始める。地域に在住一人一人が認知症との関わりを深め、互いを思いやり笑顔で暮らす社会の構築を目指す。

岩手日報 (7月15日)

救急蘇生法講習会

- 日 時：平成27年7月15日(水)
18:30~19:30
- 場 所：雫石町立七つ森小学校
- 参加者：PTA父母18名、小学生11名
学校の先生5名
- 講 師：上原MD、栃内MD、
高橋明MD、大森MD、
篠村五雅MD、大間DD、
篠村達雅MD

岩手西北医師会理事会でプールの始まる前に小学校の父母を対象とした講習会をやるという話があり、それが実現した。

*心肺蘇生法訓練用人形とAEDデモ機を使用(3組)

栃内先生の講義のあと3つのグループにわかれ、訓練を開始した。

例年、消防署員の講習を受けている小学校だったためか、父母の方々はスムーズに動いていた。子供たちも真剣だったが、人形の胸壁がへこまないのが苦戦の場面も…。デモ機の音声で人工呼吸の部分があり、やらなくてもいいのでは?という戸惑いもあった。

皆さん、有意義な時間を過ごしたと思います。先生方ご苦労様でした!!

(篠村)

みんなの **いわて** を
医 協

ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料等々・保険事業・医療廃棄物処理事業(収集から各種報告書作成まで)・福利厚生事業・労働保険事務代行業

TEL.019-626-3880

購買専用
フリーダイヤル **0120-054-222**

FAX.019-626-3883

URL <http://www.ginga.or.jp/~isikyoo/>

E-mail isikyoo@rose.ocn.ne.jp

 **いわて医師協同組合**
IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION
〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内

読書会

岩手町 塚谷栄紀

平成24年5月から、1～2か月に1回くらいの割合で、読後感を酒の肴に、宴会を開いています。丸3年が過ぎました。私が種本を決めて、20～30歳代の、プロパー、問屋、薬剤師に声をかけて集め、4～6人の会合となります。医師会報に出るころは、20回目を迎えていると思います。

1回目からの題名、著作者と眼目を列挙いたしました。

①「黒い縄」藤沢周平 2012.5.(平成24年5月)
途中まで読み、犯人当てとその推理根拠、物語はどう終わるのかまで読み切る

②「人間通」谷沢永一 2012.7
〈臆病とケチは一生なおらない〉思わずわが身を振り返る箴言集

③「論語について」
渡部昇一、谷沢永一 2012.9
論語のもととは座談にある、堅苦しくない論語を現代にどう生かすか

④「人は老いて死に肉体は亡びても魂は存在するか」渡部昇一 2012.9.
〈死後の世界は賭けである。魂は残るに賭けたほうが得である。無くて元々である〉

⑤「あなたの癌はがんもどき」
近藤誠 梧桐社 2012.11.
今話題の一連作品、内容の真偽はともかく、文章が面白く、飽きさせない

⑥「なぜアメリカは、対日戦争を仕掛けたか」
加藤英明 ヘンリー・S・ストークス 祥伝社 2013.1
世界地図を広げればすぐにわかる。広大な太平洋を渡ってアメリカはなぜ日本まで攻め入って来たのか。アメリカは、グアム、ハワイ、フィリピン、そして日本を目指した。なぜか。

⑦「石油からガスへ シェールガス革命で世界は激変する」
長谷川慶太郎、泉谷渉 2013.3.8
今、アメリカのシェールガス、石油の依存度は30%に及ぶ。今後、日本にも輸出される。開発過程、既存の石油との違いなど。

⑧「嫉妬の正体」谷沢永一 2013.4.
〈性根のところ、人間活動の原動力は嫉妬にある。焼きすぎると身を滅ぼす。きつね色に焦がすのが肝要〉〈嫉妬心は万有引力、だれも逃れることができない〉

⑨「空気の研究」山本七平 2013.8.23

〈戦艦大和は沈没すると専門家はわかっていて、なぜ、出撃したのか。日本人の意思を決定する要素に空気がある〉この空気の意思決定をさまざまな例をもって挙げている。

⑩「アーロン収容所」

会田雄二 2013.11.11

著作が大東亜戦争後、収容所に入れられた時のイギリス人、日本人、現地人の文化論風の本である。筆者はトイレットペーパーなどに走り書きをして、残した。〈世にアングロサクソンなかりせば、世界はもっと平和であったろう。〉アングロサクソンへの憎悪が静まったところに書き起こしたという。

⑪「500年の暗黒史」

清水馨八郎 2014.1.28

〈コロンブスのアメリカ大陸発見以後の、白人の有色人種の支配を暗黒史とした。日露戦争なかりせば、大東亜戦争なかりせば、21世紀も確実にアパルトヘイトは続いていた。〉

⑫「破綻する中国 繁栄する日本」

長谷川慶太郎著 2014.4.8

〈不動産株価の暴落、理財商品の破綻、PM2.5、人件費高騰、共産主義国家の中に市場がある矛盾、中国は間もなく破綻する。日本企業は今、中国離れが顕著である。家族の健康のため、単身赴任が多くなっている。中国の破綻は、一時期には日本市場に影響するであろうが、限定的である〉中国の現状経済が詳しく書いてある。

⑬「人開通」谷沢永一 2014.6.10

2回目の種本としました。自分の感情の出所がよくわからない場合などに、拾い読みでも面白い。人間とはこんなもの、あつそっだのか。それで俺は怒りを買ったのか。など、上司に怒鳴られる若いサラリーマンには損のない本と思われま

⑭「朝鮮崩壊」長谷川慶太郎 2014.7.30

北朝鮮崩壊の進行状況、それが及ぼす韓国への影響、そして日本は。

⑮「大東亜戦争こうすれば勝てた」

日下公人、小室直樹 2014.10.7

〈真珠湾では石油タンクまで破壊すべきであった。ミッドウェーには戦艦大和を出墜させ、一気に太平洋における制海権を持つ。アメリカ艦隊は西海岸に貼り付けになり、ヨーロッパまで艦隊を送れない。ノルマンディー上陸もできなかった。日本は英国のプリンス・オブ・ウェールズ、レパルスを撃沈したあと、一気にインド洋から地中海まで勢力を伸ばす。となるとロンメルには十分な勝算が出てくる。ミッドウェーで勝っていれば、ドロンゲームになる可能性があった。〉

⑯「海鳴り上、下」藤沢周平 2015.2.13

駆け落ちの物語。双方とも紙間屋夫妻、50歳の男女、藤沢周平にしては最後が明るい小説。数回読んでいて飽きない面白さがあります。気分の落ち込んでいるときはまた格別。

⑰「男は男らしく女は女らしく」

渡部昇一 2015.3.27

〈男女の差を差別としないで、本姓をどうすれば生かしていけるか。一例をあげれば、子供は女性にしか生めない。客観的にみて、女性は出産に適正がある。そして、子育てには断然女性が向いている。何せ、肌が柔らかい。男の体など子供は痛くて抱かれていたくない。男女同一という無根拠の言いふらしによって困っている女性も多いのではないか。〉

- ⑱「アメリカと中国は偉そうに嘘をつく」
高山正之 2015.5.15
米国を中国はいつも偉そうである。いつも、自分たちが正義であるようなふりをする。その実、なにをしているのか、わかったものではない。その実態がわかりやすく書かれている。

- ⑲「渡部昇一の日本史快談」2015.7.3
信長から現代まで。日本の歴史を虹としてみた。虹は遠くから見て始めて分かる。そばに近づくと、水玉である。水玉の研究は多くある。しかし、日本史は世界との関係でどうとらえたらいいのか。あくまで、日本の立場、味方にたって、見た本です。自分の先祖を汚されていい気分になる人などいないはずです。

読みづらい、自分の好みでない本もあると思うので、その時の題名、内容で参加者を決めています。読み切った後の一杯は、ただの旅の一杯ではなく、学会参加した後の一杯のごとくであり、感想会も私には楽しみのひと時であります。
尚〈 〉は、本文からの抜粋です。

仲間便り

葛巻町から

昔の常識は今の非常識

葛巻町 西島康之

第134回岩手医学会総会における特別講演で、岩手医科大学学長小川彰先生の「心ある医師養成を目指して－徳育の勧め－」、と岩手医科大学整形外科教授土井田稔先生の「腰痛診療の最前線の中で、－医学の常識について－」の講演を拝聴する機会があった。

そこでここ最近ふと考えるのだが、昔は常識だったことが現在では非常識であったり、その逆のこともあり、時代の移り変わ

りに驚くことがある。

スポーツ医学を例にすると、昔は「水分を摂るな」と指導され、それが当たり前のように常識として受け入れられていたが、今は「水分を摂りなさい」と真逆に変わり、以前常識と思われていたことでも今では非常識となっている。

思い出すと戦後、私達の子供時代は食事をするのも大変な時代で、「飯台」に10人位の家族が並んで食べていた時代で、食卓

に上がった食事は競争して早く食べないといけない時代でもあり、それが常識の光景であったが、時代が移り変わり経済成長を遂げ今の日本では、食卓に家族がそろう所は少なく、食べたいものを食べ、嫌いなものは残しても叱られない時代になってきている。

最近の国会もそうである。戦後、平和の象徴である憲法第9条が誕生しこれまで守られてきたが、今はそれが今の非常識なのか国会でこの憲法解釈が争点となっている。「常識」とはいったい何なのだろうか？時代や進歩という言葉で全て片づけても良いものなのであろうか？

ドイツ生まれのユダヤ人理論物理学者の「相対性理論」で有名なアルベルト・アインシュタイン博士は、「常識」について次のように語っている。『常識とは18歳までに身につけた偏見のコレクションのことをいう。』また、アインシュタイン博士は次のようなことも言っている。『過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望をもつ。大切なことは、何も疑問を持たない状態に陥らないことである。』

つまり、「当たり前」と思っていることが「常識」であり、当たり前だからこそ疑うこともなく受け入れている。今ある現状に全く疑問を持たない状況の中では、いつまでもそれが常識となっているということである。

昔の言葉に「衣食足りて礼節を知る」という言葉がある。これは、礼節や人の道は暮らしが豊かになり衣食に事欠かなくなつて初めてわきまえるようになるという意味である。では何故、経済成長を遂げて衣食に事足りてきている今の時代にますます礼節や人の道が乱れてきているのか？その質問に対して昭和の大経営者でもある松下幸之助は「以前の日本にあり今の日本に足りない「徳育」が欠如しているからである」と答えている。徳育が欠如した日本教育の中ではいくら衣食に足りても礼節や人の道を説いたところで無知の人（獣）に説くものと同じ。松下幸之助は日本の行く末について「このままでは無知（獣）の国になるなあ」と憂えていたという。

坂本龍馬じゃないが、この国を今一度、洗濯してみてもどうだろう。

徳育が失われた日本の中で、本当に今の現状が常識なのか非常識なのか私たちは疑問を持たなければならない時代になっている。「徳育」のように過去から学ぶべきものがあるのではないか。「常識」を疑えという言葉は今の政治・経済・教育・医学どの分野にも言えることではないのだろうか。この国を無知（獣）の国にしてはならないのである。

－ 昔を今になすよしもがな －

『静御前』。

感謝の言葉

八幡平市 及川 忠人

本日は伝統ある第67回岩手県医師会総会において、共々会員表彰を受けましたことに心から感謝申し上げます。各地の郡市医師会においてご活躍の先輩諸先生の受賞者が多い中で、誠に恐縮に存じますが御指名ですので被表彰者を代表して御礼の言葉を申し上げます。

我々は、岩手県内各地にて医師会活動に加えて頂き、県医師会活動の関連事業に係わる事が多く、日常の臨床活動の合間になされた諸活動が評価され今回の会員表彰を受賞することになったことは大変嬉しく心から感謝申し上げます。

日本の社会は数年前から人口減少高齢社会に突入して、地域医療の維持や地域包括ケアシステム構築が大きな課題となっております。この受賞を契機に、各地域医師会ならびに県医師会諸活動への支援をそれぞれの地域において続けることが求められていると思います。

丁度8年前の4月に開催された第27回医学会総会で大阪に行った時、緒方洪庵先生

の適塾跡を訪ねた時に、「扶氏医戒之略」が掲げてあり、その頃の医師の心構えの実態を学んだことが印象的であります。その医戒の始めに「人の為に生活して、己のために生活せざるを医業の本体とす。安逸を思はず、名利を顧みず、唯おのれをすてて、人を救わんこと希ふべし。人の生命を保全し、人の疾病を復治し、人の患苦を寛解するの外他事あるものにあらず。」とありました。母校に入局した時に恩師金谷春之教授が「医師の心構え」として引用し生きる指針とするように教えられたのが「扶氏医戒之略」でした。今でもとても素晴らしいと思います。「初心」を導かれた恩師・母校への感謝をしなければなりません。

昨今、まづ自ら健康長寿の模範を目指しつつ医師会活動への支援の一端を担って参りたいと思いますので、さらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、受賞者を代表して「感謝の言葉」に替えさせて頂きたいと存じます。本日はありがとうございました。

医師会 医報バックナンバー

No.1（昭和56年4月発行）～ No.2（昭和56年6月発行）

岩手西北医師会のホームページ（会員専用ページ）からもご覧いただけます。
<http://iwate-seihoku.jp/>

岩手郡医報

昭和56年4月 - No. 1 -
編集／発行
岩手郡医師会



磐石町より岩手山を望む

発刊の挨拶

会長 上野 精三

昭和22年岩手郡医師会が設立、以来30有5年を経過いたしました。この間色々な出来事がありました。何分にも詳細な記録がないので、只今私の脳裡に去来するものは会員の異動の如何に頻繁であったかと云うことです。

当初は会員10数名が勤務せられる、松尾鉦山病院があり又管内各町村が（3町20ヶ村）が競って設立された町村立診療所があり会員の完全な掌握も不可能な状態でありました。只最近10年位は合併各町村共会員が定着したことは住民の爲誠に喜ばしいことであります。

只今日記録に残すべき事言い換れば会報の発行がなかったことは私共の怠慢にて誠に慚愧に耐えられません。今回編集担当各位の御尽力により待

望の郡医会報を発刊せらるゝことは会員各位と共に誠に喜びにたえません。後世の方々に記録を残し多少なりとも参考とならば私共の望外の喜びであります。

御承知の如く今日程医療問題が「マスコミ」を賑わし又医療に対する批判がなされたことはありません。会員各位もこの批判を他山の石とせず自らもこの難局に対処せねばなりません。

このためには先ず会員間、特に地域毎会員同志の「和」が最も大切であります。今回会報の編集を担当せらる、諸先生方の御労苦に報いるため全員の思い思いの投稿を御願ひいたしまして発行の御挨拶といたします。

55年度郡医師会行事報告

1. 昭和56年1月以降の新入会員

- 田村 公一先生(1月) 弘前医大
滝沢村 田村産婦人科
伊藤 植二先生(4月) 岩手医大
安代町 町立安代診療所

2. 県民健康教育講座

- (イ) 会場 岩手県生活改善センター
(ロ) 期間 自 1月22日 までの5日間
至 2月19日
(ハ) 講師 岩手町及葛巻町の全会員及玉山村岡本先生
(ニ) 出席人員
1月22日 85名 2月12日 89名
1月28日 82名 2月19日 91名
2月5日 82名

3. 健康開発会議

2月19日県民健康教育講座の終了式に引続き県医小川英治常任理事を講師として行う。

4. 理事会(県医各部委員合同)

3月17日午後6時30分より西根町平館高校食堂にて会長、両副会長、全理事及監事 県医各部委員協議内容

- 1 昭和56年度事業計画
- 2 昭和56年度一般会計予算案
- 3 昭和56年度休祭日当番医補助金予算案
- 4 昭和56年度県民健康教育講座の開催地について
- 5 学校検診について
(イ) 高校一年、中学一年、小学校一年の心臓検診問診表の配布について(郡医師会より配布とす)
(ロ) 扁平足の調査について

5. 総会

3月26日午後6時30分より岩手県川原新田ドライブインにて開催

- (イ) 出席人員 36名
委任状 21名 計 57名

(ロ) 議事

- (1) 昭和56年度事業計画
- (2) 昭和56年度一般会計予算
- (3) 昭和56年度休祭日当番医予算
- (4) 昭和56年度県民健康教育講座は零石町西根町の二会場とす。
- (5) 県医師会主催の海釣り大会を担当す。以上原案通り決定す

6. 県医師会代議会

2月28日午後2時30分 於会館

- (イ) 各部報告
(ロ) 岩医厚生、医師信金、予防医学協会の現況報告
(ハ) 議事(主ナルモノ)

- (1) 昭和56年度事業計画
- (2) 会費、及特別会費について
前年通りとするも特別会費は56年度には終了
- (3) 昭和56年度一般会計予算

収入の部

2億6,882万5,000円
内訳 (一般会計 189,944,000)
(建設会計 78,881,000)

支出の部

2億6,882万5,000円
内訳 (一般会計 207,225,000)
(建設会計 61,600,000)

— 代 議 員 会 だ よ り —

2月28日の会議の概要は次の通り健康保険、健康教育に講師を派遣する。健康教育は本年15地区の医師会で実施したい。
労務厚生部、医師会としてすでにお手本に差上げた積立ファミリー保険に力を入れてやりたいので資料を検討してほしい。
地域医療部、医療実態調査は三月中に発表したい、脳卒中患者の調査により実態はまだこれから検討したい。

医師信用組合の現況説明あり、又貯蓄20億を達成したいので協力を願うとのこと。
産業医部として振動病について講習会をやり指導を行いたい。
医事紛争6件あり、3件は妥結
57年野球大会は東磐井医師会担当、又ゴルフは花巻、紫波医師会共同で新山ゴルフ場に決定

以上

*** **

・広報委員より、いわて郡医報にふるって投稿等願います。

勤務医部会から

岩手県医師会に大阪府に次いで勤務医部会が誕生してから5年の歳月を数えることになったのですが、56年12月6日には、5周年記念総会を開催し、5年間の活動報告と講演会を新装なった県医師会館で行なわれました。

結成来、県医師会勤務医部会活動は低調な歩みを見せ、軒々活発となっており、日本医師会内にも勤務部会を屈指して来ており、日経メディカルにもとり上げられ存在を認められる迄に至りました。活動内容については省略しますが、既にその都度冊子にまとめて会員の方々に報告しております。

さて、郡医師会部会活動については、1、2の郡市を除いて残念乍ら皆無に近く、岩手郡医師会も例外ではありません。

幹事会として、この現況から、各郡医師会部会会員との接縁を図り乍ら、会員の部会に対するひいては医師

会への認識を深める意図の下に各郡医師会で移動幹事会を年2ヶ所づつ期して参りましたが、大いに成果を挙げられたと信じております。今後も継続実施して行く予定です。

部会活動の成果を挙げる為には、何となくとも活動費、部会総会費等の援助が必要であると思っておりますが、ようやく56年度は勤務医部会事業計画がとり上げられましたので、その方向に進むものと思います。

何れにしても、一人でも多く活動に参加され、会の発展を望みます。

因みに56年度県医師会部会幹事会に6月7日盛岡で行なわれ、アンケート調査を企画、9月6日釜石で移動幹事会を開き、アンケート調査の報告と二次救急医療について討議、12月6日は盛岡で総会並びに講演会を記念事業として行なって、講師に一橋大学教授江原康一先生(老後保障について)、自治医大教授高久文輝先生(生涯教育について)にお願ひして盛況裡に終わりました。

玉山記

岩手県医師国保組合会並に共済会に出席して

去る2月21日上記の会議が岩手県医師会館に於て、開催されましたが、この両会議に出席しましたので、簡単に概略を報告いたします。

- 1 先ず医師国保組合会の事業計画として
 - a) 家族、従業員の入院給付割合を8割とした助産費を150,000円とする。
 - b) 傷病手当金の口額を5,000円とする。
 - c) 岩手県医師国保の保険料を下記の如く値上げする。
 - 1) 組合員1人につき年額180,000円
 - 2) 家族1人につき年額54,000円
 - 3) 従業員1人につき年額24,000円
 - 2 また組合職員、都市医師会職員の場合
 - 1) 組合員1人につき年額24,000円
 - 2) 家族1人につき年額18,000円
- 次にII) 共済会の今年度の事業計画として
- 1) 死亡弔慰金を500,000円とする。

- 2) 傷病員舞金を日額5,000円とする。

以上の如く何れも原案通り議決されて居りますが、その他詳細については、既に配布済みの資料を参照して戴きます。

尚、共済会の協議事項として

医療従業員の退職金共済制度について、の説明があり、それについては別紙資料を読んで戴き、会員各位の賛否を集約するようにとの事でした。

又、共済会の要望事項として、

共済会の重要な事業の一つとして会員並びに家族従業員の健康診断については、既に他郡市医師会に於ては実施済みで、残るは岩手郡、紫波郡のみと云うことで、近いうちに当医師会でも実施するよう努力せられたいとのことでした。

◎井尻 正次

全国医師将棋大会に出席して

安代町 田山診療所

熊谷小次郎

私は若い頃から将棋を趣味として今日まで続けてきました。昨年4月7日、第20回、日本医学将棋大会が、東京千駄谷の将棋会館で開かれて多数参加のうちに対局が始まりました。私も10時から参加して楽しい1日を過ごしました。審判長は、花村元司九段で、リーグ戦で、私は5勝2敗16点で8位に入賞しました。最初は枚数

る意気込みで、出かけたのですが、全国にはやはり強いお医者さんが居るものだと思います。後日、当日の表彰表と記念スナップを責任者の長堀先生から送って頂き、その時の模様をなつかしく思い出して居ります。

次の日本医学学会総会は大阪ですが、丁度大阪にも将棋会館が建設されている筈であり、今から楽しみに待って居ります。

健康教育部より

昭和五十五年十月八日、岩手県医師会館において、健康教育委員会が開かれました。

席上、県民健康教育講座の議題があり、昭和五十六年度より、全市、郡医師会で開催予定とのことでした。これにもとづいて、岩手郡医師会でも昭和五十五年度に開くことと致しました。岩手郡は地域が広く色々問題もありましたが、岩手県、岩手保健所、岩手県医師会の協力を得て、久慈先生を始め、岩手町、葛巻町の先生方の御協力をいただき、本年、一月二十二日より、二月十九日迄、岩手町五日市生活改善センターにおいて開催致しました。教科、講師は別表の通りで、受講数も大変多く、好評でした。講師の先生方、協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。

昭和五十六年度の郡内開催地区については、郡医師会総会において決定したいと存じます。

県民健康講座日程表(56年)

月日・時間・会場	教 科	開 講 者	所 属	受講人数
1月22日(木) 13:30~16:30 五日市生活 改善センター	開講式 (1) 高血圧と脳内出血について (2) 野鳥害について (3) 消化器科診療について	内 科 近藤 純 浩 内 科 宮 崎 昭 郎 内 科 伊 藤 一 雄	葛巻町 葛巻町 葛巻町	95
1月29日(木) 13:30~16:30 五日市生活 改善センター	(4) 肝臓病と肝炎 予防接種について (5) 糖尿病について (6) 産婦人科に多い 病気について	内 科 西 尾 隆 之 内 科 宮 本 久 夫 産 婦 科 中 川 高 孝	葛巻町 岩手町 葛巻町	92
2月5日(金) 13:30~16:30 五日市生活 改善センター	(7) 老人病について その1 (8) 老人病について その2 (心臓病について) (9) (都市必要とする 特人(特に) 老人の看護について) (10) 手前産科の概 要について	内 科 熊 宮 文 彦 郎 内 科 丸 橋 隆 一 普 済 婦 科 小 松 浩 夫 内 科 中 村 明	岩手町 葛巻町 葛巻町 葛巻町	92
2月12日(木) 13:30~16:30 五日市生活 改善センター	(11) 脳卒中について (12) 脳卒中について (13) シンクについて	内 科 花 道 隆 産 婦 科 飯 井 博 樹 内 科 高 橋 明	岩手町 岩手町 葛巻町	89
2月19日(木) 13:30~16:30 五日市生活 改善センター	(14) 痔瘻病とアトピー 性皮膚炎について (15) 小児をテーマに するものは (16) 消化器疾患につ いて 閉 講 式	精神科 関 本 和 夫 小児科 工 藤 剛 嗣 内 科 船 岡 宗 吉	五 山 村 岩手町 岩手町	91

学校医部だより

初の岩手郡医師会報が上梓される由、誠に慶賀にたえません。心から御祝いと御慶びを申し上げます。過日、編集委員長より学校医部でも何か書く様にとの連絡を受け、さて何か学校医部幹事会の様子でもと考へて居た矢先、時既に遅く、いわて医報(No.359)に詳細に掲載されて居ります。が重点を再掲すると

- (1) 岩手県学校保健、学校医大会開催への準備促進
- (2) 心、腎検診対策の推進
- (3) 第六回北日本学童心臓病予防研究会の開催
- (4) 学校保健委員会の結成促進

- (5) 学校医部会幹事会及び総会の運営の強化
 - (6) 学校PTA等学校保健関係団体との連携
 - (7) 耳鼻科検診方法の検討
- であります。

今日はこの紙上を借りて、連絡と御願いを申し上げます。それは本年昭和五十六年度の岩手郡学校医部では、「扁平足」をテーマとしてとりあげました。会員各位の御協力を御願ひします。そして次号よりはテーマの選択にもっと討議、検討を要すると痛感して居ります。

岩手郡医師会報の初刊に際し御祝いと御願ひを併記し初便りと致します。 A. A

趣味漫筆(その一)

近藤純造

某年某月某日葛巻病院長佐藤先生が秘蔵しているニコンS-2型、パールⅢ型などを携えて私のリスニングルームをおとずれたのがきっかけとなって私の懐古趣味がむくむくと頭をもたげ、戦前から昭和37年頃までにとっかえひっかえ使ったことのある数十台のカメラが無性になつかしくなり、おくればせながらこれらのカメラの収集を思い立ち、これ迄に玉石混淆名機迷機新旧とりませ非系統的に雑然と60台をを超えるカメラが集まっておりスローペースではあるが家人の非難とあきらめの声をよそに増えつづけている。

もとより何十万もするようなカメラなど買える程ゆとりがあるわけではなくライカ、コンタックスツェイスイコソの他の名機など及びもつかず、「俺はあく迄も国産カメラの愛好者で外国製品はお呼びでない」などとやせがまんをしているがライカの中でも3F、M・3、M4-2、とか喉から手が出る程欲しいのが本音である。しかしライカシリーズなどは初期のA型などは別として殆んどものは金さえ積めば品物はあるのだしいつでも手に入るのでもそういう代物は金の有り余ってる遺棄者にあづけ、専ら安く手に入るしかも珍しいものをと心がけているが、コレクター諸氏の狙いも同じとみえて仲々珍奇なものにはお目にかかれず、いたずらに昔の中級35ミリレンズシャッター付のありふれたカメラが集まってきてリスニングルームの一角にある我がショーウィンドーをどでんと占領しているお粗末さである。

私とカメラとの出会いは速く小学校の高学年の頃にさかのぼる。私の亡父は田夫野人然とした風態をしていたが、私もその血統をそのまま、受継いでるようであるが、一案外とモダンな面もあって当時隣家に町の道楽者共が集って始めた撞球に凝っていたりしたが、折畳み式の手札型乾板を使うカメラと、ピントを合わせる時に用いる冠布や木製の三脚などをどういふわけか所持していた。亡父は

書や日本画などにも趣味があり、町の写真屋兼表具師をしている人と親しくしていたのでその人からの借り物か譲り受けたものか定かではないが時々冠布をかぶって外の景色などにレンズを向けピントグラスに写る倒立天然色の映像に魅せられ、「ああ早くこういうカメラを使ってみたいものだ」と子供心にも思ったものである。しかし休祭日も休みなく診療していた亡父にとってこのカメラも所詮は飾り物に過ぎなかった様でその証拠にはこのカメラで写して貰った記憶は殆んどなく、残っている原板は後年私が盛岡中学に進んでようやくこのカメラをいじくり廻した頃の物ばかりである。

1日中診療に追われ、さて一家団らんの写真でも撮ろうかという頃にはとっぷりと暗くなっており、今の様に手軽にストロボでパッパッとという訳にはゆかなかつたので止むを得なかつたかも知れない。一日の仕事が終え晩酌のあとでさもないとおしそくに布でカメラを磨いていた亡父の姿が現在の私の姿と同じかも知れない。この頃の国産カメラは殆んど海外カメラのイミテーションで、このカメラもいつの間にか姿を消してしまったが今文献などで調べると、小西^{ノブ}で出していたリリーのある型だったように思える。今手許にあったらと、いつも残念に思っている次第である。

私が盛岡中学に入り寄宿舎に入ったが、この頃買ったのがかの有名なトーゴカメラであった。小さな変哲もない木箱に種板と白堊現像定着液とセルロイドのバット付きでたしか桜山神社の近くに店があって今でいう実演などをやって少年の間では仲々の人気であったがこのカメラで風景や友人などを写して結構楽しんだものである。因みにこういった古いトーゴカメラなどのたぐいは今やコレクターの間では垂涎の的で何万という馬鹿げた価格で取引きされている。(次号につづく)

雑談

高橋 牧之介

滝沢は県下第一の人口急増の村、そして私の住む鶴岡は、その中でも最も増加率が高くここ10年間に人口が4倍になったそうだ。そこで村は都市化されて行くが、長い間続いて来た村民の意識は急に変わるものではないらしい。農村的なもの、都市的なものとが混在し、純朴な農村の人情や風習が、当院の待合室や診察室でも始終見かけられる。

○昨年末亡くなられたが滝沢村唯一の名誉村民に上田常隆という方があった。原首相の近親で、かつては毎日新聞社の社長であった。この人は、元東大¹学長の茅誠先生と共に「小さな親切運動」を提唱している。これに刺激されたのか、滝沢村ではこの運動を推進している。

農村の共同連帯感や「小さな親切運動」などの影響であろうか。待合室での患者さん達は、知らない者同士でも「お前さんはどちらから来あんした」とか、「どこが悪くて？」などと親しそうに話し合っているようである。そしてこの話し合いは、私との間でも、診療、回診の時などによく行われる。病状とは関係のない雑談が屢々なので、忙しい時は困ることもあるが、心の触れ合いができるので微笑ましく、慰いにもなる。その話の中には、一流の評論家の高説にも劣らないような意見が交っているように思われるので、そのいくつかを記してみる。

待合室でテレビを見た直後の場合が多いので、それに関連した意見が多い。

○病院の待合室は、老人達に談話室として占領されたというが、それは余りにもおおげさだ。どこか悪いから病院に来るのだ。病気でない者は病院には来はしない。待合室で話し合っただけでよいではないか。

○老人のため医療費が多くなって困るという。医学が進歩し、医療が普及すれば、体の弱い者も長生きする。その者は病気になる。医療を施さず、弱い者は早死にすれば、少数の丈夫な者がだけが生き残り、医療費は少なくて済む。一層のこと。医者も薬もなくなれば医療費はゼロとなる。そういう世の中がよいという人はあるまい。

人命を尊重し、福祉を優先する以上、医療費の多くなることは当然で、それは世の中がよくなったしるしであり有難いことである。

○大学入試の正解の間違を、外部から指摘されたが、出題した方は間違っていないといった。そして後で間違いを認めたことがあった。

出題した大学の先生でさえ、正解を迷うような問題を出すのはどうかしている。

正解の番号に○印をつけた受験生だって、てたらめにつけたのがあるかもしれない。入学試験も案外あてにならないことがあるような気がする。しかし、くじ引きよりはましであると思う。

○動物愛護の精神で、カモシカやイルカなどを保護するという。白鳥やトキなどは、お姫様のように大事にされている。ところが、牛・豚・鶏などはどうであろう。人間が生きていくためには仕方がないという。

人間は、勝手な理屈をつけるが、生物の世界は結局弱肉強食である。

地球上の人間が、高僧聖者の様に、殺生をやめない限り、戦争はなくならないと思う。

○子殺し、親殺し、小学生の殺人、自殺、心中等の多いこと。ニュースを見て驚かなくなった。人間の世界が狂って来たようだ。人間過剰に対する自然制御であろうか。

○新幹線、空港、発電所などの建設には、騒音、公害などで反対運動のあるのが例である。

ところが、交通事故では、毎年何千人という人が死ぬが、自動車や飛行機の廃止運動は起こらない。

大型トラックが往き交うのを見ると、米の産地では米を食い、麦の産地では麦を食い、北国では林檎を、南国では密柑を食うようになればよいがなあと思ったりする。

○テレビは一億総白痴という放送のための費用、視聴のための時間は莫大であろう。

油が汲み尽され、自動車やテレビがなくなったら、静かな世の中になるだろうと思うが、歴史は逆戻りしないそうだ。



編集後記

どうにかこうにか発行にこぎつけました。これも一重に会員の先生方の御援助によるものと編集員一同深く感謝して居ります。今後よりよい会報を発行するため一層の努力を惜しまない覚悟で居りますので会員の先生方の御助言御投稿を切にお願ひ申し上げます。

岩手郡医報

昭和156年 6月 - No.2 -
編集／発行
岩手郡医師会



北上川の源流弓弭（ゆはず）の清水

天喜5年、八幡太郎義家公が、東征のおり、炎天下に兵馬が苦しむのを忍びず、観音に祈念して矢尻で岩をうがいたところ、こんこんと清水が湧き出て、これにより兵馬元気になり、ことごとく勝利を得たという

この泉加美川に注ぎ、以来北上川と呼ぶ。（いわて町観光パンフレットより）

そばの記念碑には母なる川北上川は岩手町御堂観音、弓弭の泉を源とし蜿蜒（247）キロメートルを流れて石巻の河口で太平洋に注ぐ。川の流れの悠久を思い、自然の恵みに感謝し北上川源泉のこの地に本碑を建立す。ときざまれて居ります。（写真 近藤先生撮す）

行事関係の報告

1. 当医師会関係

(1) 昭和56年4月新入会員

山田 わか子先生 岩手医大

滝沢村 山田小児科内科医院

(2) 学校医部会

4月16日玉山村ふるさとに於て開催

出席者、会長。両副会長。秋浜担当理事の外安代町、伊藤。松尾、二瓶。西根町、森。岩手町、久慈。葛巻町、早藤。滝沢村、高橋（牧）。磐石町、長谷川。各位一ヶ町村一人宛学校医代表出席の上、下記の事項につき協議す。

下 記

本年度当医師会の学校保健の重点項目として

- (A) 学校保健委員会の完全実施
- (B) 小中高校各一年生に対する、循環器検診
- (C) 小中校各一年生の扁平足の調査
- (D) 養護教諭との懇談会並に学校保健に関する講演会の開催（秋浜理事担当）
- (イ) 新基準基準点数早見表並に改訂診療報酬点数表を全会員に無料交付のため社会保険研究所に注文す。
- (ニ) 扁平足調査のため町村教育委員会に協力依頼す。
- (ホ) 新医師会名簿の原簿を送付す。
- (ヘ) 新会員田村公一、山田わか子両先生より予防接種承諾書を提出せらる。
- (ト) 医師信金総代は組合員の全賛一致の推薦により選挙を省略従来の四氏に決定す。

2. 医師会関係

(イ) 6月28日県医総会時の表彰者について

(県医師会より)

(ロ) 修学旅行時の救急患者の応急処置依頼について

(鎌倉市教育委員会より)

本件は会員宮沢先生に依頼す。

(リ) 昭和56年度日医会費について（日本医師会よ

り）前年同様にしてA会員年額6,2000、B会員年額2,2000、C会員年額6,000徴収方法は前年通りとす。

(ニ) 県立中央病院改築に関し県医師会よりの要望書（県医師会より）を送付す。

(ホ) 学校医幹事会（5月9日）

秋浜、上野出席 協議内容別紙の通り

(ヘ) 保険問題協議会（5月19日）

高橋（牧）先生出席 内容は次号に

(ト) 勤務医部会幹事会（5月30日）

玉山先生出席、協議内容次号に

(チ) 医療情報システムに関する会議（5月28日）

会長出席、協議内容は次号に

3. 医師国保関係

(イ) 人間ドックの利用について

(ロ) 医師国保規約の一部改正について

4. 医師国保組合共済会関係

健康診断計画について

安代町、松尾村、岩手町に希望者あり

詳細は希望者に後報の予定

5. 予防医学協会関係

管内小中高校一年生の循環器検診一斉に開始せらる。

6. 医師信金関係

5月23日総代会議開催

上野、宮杜、土谷、早藤各総代出席

7. 5月13日、日本医師会より下記の電報がまいりました。

下 記

自民党は医療保険法部会案と、老人保険法案を修正することなしに国会に提出を決定した。自民党社会部会はこれをもにのみにする模様である。医師会は今後自民党に対し従来と異なった対応する必要がある。

日本医師会長 武見 太郎

昭和56年度初の学校医師会開く

第1回学校医部会総会幹事会

日 時 昭和56年5月9日(土)
午後2時30分より
場 所 岩手県医師会館中会議室
人 員 40名中25名出席

1. 開 会

1. 会長挨拶

A 報 告

- (1) 昭和55年度活動報告
- (2) 昭和56年度各郡市医部会活動テーマ
- (3) 心、腎対策委員会資料及び健康診断体制整備委員会について
- (4) 日医主催、学校保健研修会
- (5) その他

B 協 議

- (1) 昭和56年度事業計画の実施
 - 1) 岩手県学校医大会開催への準備促進
 - 2) 心、腎検診対策の推進
 - 3) 第6回北日本学童心臓病予防研究会の開催
 - 4) 学校保健委員会の結成促進
 - 5) 学校医部会幹事会及び總会の運営の強化
 - 6) 学校PTA等学校保健関係団体との連携
 - 7) 耳鼻科検診方法の検討
- (2) そ の 他
 - (イ) 学校医手当について

本県の手当は全国平均に比し若干低い。これは文部省の規定は、標準学校を基準にして地方交付税の中に学校医手当を含めて、自治体に交付しあるも、本県には標準学校(1学級45人の18学級生徒数810名)は僅少、特に郡市には極めて少ないため低いのが実情なり。

- (ロ) 小中校児童生徒の心腎検査の完全実施に伴い財政的裏付けを計る様要望あり。
 - (ハ) 現在薬師会が担当して居る検尿を同一医師、同一医療機関、検診委員会がタッチできる様でなければ実施の意味がないと言う点で意見の一致をみた。
- 従って郡内もこの方向で前向きに進めたい。

(ニ) 耳鼻科検診について

現在県内で耳鼻科検診は約50%実施せられ、約40%は未実施なり、医師の不足と辺地小規模校多きためと認めらる。この実情に鑑み県医師会長より耳鼻科学会岩手地方部会長立木孝生(岩手医大耳鼻科教授)へ

下記の点について御意見御提言いただき度御願ひします。

下 記

岩手県に於ける児童生徒の耳鼻科検診のあり方とその方策について

以上(上野、秋浜)

学校医部だより

扁平足調査委員会初会合開く

日 時 昭和56年4月16日 PM6.30
場 所 玉山村済民 "ふるさと"
出席者 11名(全員参加)

委員会次第

1. 岩手県医師会長挨拶
2. 議 題 扁平足調査に関する件
 - (イ) 実施方法 色々と忌憚のない意見が繰出されるも本年度は全郡下、小中一年生のみを調査対照とす

る。

- (ロ) 費 用 最小限度但し用具(紙等)は郡医師会で作成したものを使用する。
- (ハ) 判定基準 長谷川、森、早藤、各委員より専門的且建設的な意見が述べられ8月以後に更に会合を持つ事とする。
- (ニ) 期 間 一学期末(7月20日)迄とす。
- (ホ) 送 付 玉山村秋浜医院又は最寄の医療機関

とした。提出を受けた医療期間では小院まで御届け下さい。

- (ハ) 発表 岩手郡医師会報に掲載の事、及び協力校に一部ずつ贈呈する。(約100部)但し全部無償とする事。

3. 閉会及び結び

有意義な会であった。郡医師会として初の試みである。

先づやってみよう。会員各位の協力を望むや切に！
なお当日否、当夜遠路能々御出席下された各委員に謝意を表す。

追記

4月21日某村の学校保健会に出席した処費用が多くなければ村自体で経費を持ち小一、中一年生ばかりでなく全生徒児童の扁平足調査に協力すると言う甚だ力強い教育長の発言のあった事を付記する。以上

第11回岩手県医師会親陸海釣大会についてお知らせ

7月12日(日)釜石の唐丹湾で開催予定。

前日の7月11日(土)午後6時30分より釜石市唐丹「小白浜レストハウス小白浜」で前夜祭懇親会をやります。

当日の7月12日(日)午前5時唐丹湾小白浜岸壁より出港。午後1時帰港。

当日の参加者は午前4時30分までに小白浜岸壁に集合して下さい。

会費は郡医師会にて負担致します。

参加希望の会員及び家族、事務員の方は6月30日迄に11日の宿泊要否も合せて上野会長まで申し込み

下さい。尚詳細については今回の担当幹事宮杜までお問い合わせ下さい。(電話01969-2-3203御明神診療所)

[おきそい、]唐丹湾は風光明媚なところ、いつもは波静かです。朝日を迎え船で一パイやりながらの釣はストレス解消にもってこいです。釣れる魚はアブラメ、カレイ等ですが時には大グコが釣れてびっくりすることがあります。又このタコは非常においしいです。釣り方も簡単です。針に餌をつけ船頭の言うがままに竿を上下に動かせばググッとかがって来ます。ふるって御参加下さい。



嗚呼 あの頃

上野 精三

昔から人間過去を語る様になれば、人生のゴールが目前でラストスパートをかける頃と言われて居ることは皆様御存知の通りです。確かに私もラストスパートをかけるべき時期でゴール迄あと百二十米位、正に第三コーナーに差ししかかって居りますが、幸か不幸か昭和十六年五月北支中原会戦の戦斗で右膝関節部を受傷したのが原因で歩行には支障ありませんが、走ることは不可能で、多数の医専同級生、同期衛生部幹部候補生、其の他戦友、部下、友人に追越され、未だ人生のゴールのテープを切り得ないで居る次第であります。

Ⅰ 徴兵検査の頃

思い出しますと、私は満洲事変の真只中、昭和七年三月岩手医専の一期生として百一人の方々と一緒に卒業させられましたが、卒業生の大半約六十名の方は入学前にすでに兵役関係を終了され、残りの約四十名は戸籍欄の男と言う字に○印をつけられて居れば悲しんでもくやんでも避けて通ることの出来ない国民の三大義務の一つと言われた徴兵検査が待ちかまえて居るのでした。

ただ、在学中の学校教練では卒業後兵役に服さねたならない様な学生に対しては配属将校の日常の指導には特別にきびしいものがありました。其の当時私達は兵役を待つと云う気持はさらさらなかったのですが、昭和七年五月徴兵検査の通知が麥り甲種合格といわれ逮捕された訳です。

当時の徴兵検査風景を再現してみますと最初一時間は学科試験で算術、国語の試験が行われ(但し中学校以上の学校卒業生はこの試験は免除)

次に、広い身体検査場で身長、体重、胸囲の測定が補助者である衛生下士官によって行なわれました。其の時身長一米五十八糎未満の者は身長が終つたらすべての検査を省略して直に徴兵官(歩兵大佐の驛隊区司令官)の前に行く様に下士官から指示され所謂軍隊用語の短尺者はここで国民兵役に編入と宣告され生涯兵役と無縁となる訳です。当時の社会情勢を考えるとこの方々は多数の面前で国民兵に編入すると言われると顔面蒼白となって真に気の毒な今にも泣き出しそうな顔になります。一度検査場から出るとそれは、それはどうして喜々として小さな体の肩をいからせて社会に出て行くのでした。それに比べて当時私は身

長一六五^{cm}、体重六十二^{kg}、裸眼視力左右〇、八なんと運悪く育ったものかと親を怒んでも後の祭りでした。徴兵官の前におっかなびっくり参りますと、徴兵官は一通の書類を差し出して、これを岩手医専の配属将校但馬中佐(後南戦線で活躍名誉の戦死をされた故少将)に持って行く様指示されました。私が徴兵官の前で書類を見て居りますと“但馬中佐が学校で待って居る故早く持って行く様”重ねて言われたので、私は徴兵官に“この書類を書いて又ここに持ってくるのですが”と尋ねたら“但馬中佐が全部書いてくれる故印を押したなら君は帰ってよろしい。これで君の徴兵検査は終り”と、宣告されました。後で考えてみますといとも簡単に検査で、すべてレールの上を走る電車の様誠に順調すぎる検査でした。

当時兵隊は零銭五厘(ハガキ一枚の値段)で馬は三百円から百貳拾円位でした。軍馬は甲乙丙丁戊の五種類あって、旅団騎兵、師団騎兵、砲兵、糧馬鞍馬と最初から決められて居りました。この中の性質のおとなしいのが将校乗馬として使用される訳でした。

零銭五厘の兵隊は入隊後の努力で肩の星に差が出てくる訳です。私はいとも簡単に甲種合格を宣告され、渡された書類の中に、幹部候補生志願証書と言うのが一枚入って居てそれを但馬中佐が書いて私の印を捺印して出した為に、やがて兵役に服する結果となった訳です。

当時の従軍歌に

一つとせ 人の嫌がる軍隊に

志願で行く様な馬鹿もある

ここで言われた志願の意味は心から軍人が好きだと言う意味でなく、格好よい将校になるか、勇ましい下士官になるか、或は苦勞多き兵隊になるか、自分の好きなものを自分で選べと言う意味が多分に含まれて居ると解するのが正しいと思われました。一部には楽な将校と言う考えもないわけではないけれど、いざ将校になってみると楽なんて言うものでなく、責任と任務の重大さを考えれば楽と言う言葉は将校には皆無でした。私はこの様に考えて約十年間の兵役を経過して参りました。今思えば十年間の兵役で私に残されたのは“健康の素”ただ、一つです。

これは私達衛生部幹部候補生として、入隊させられましたが、最初は歩兵一等兵でした。

次号ではいよいよ地方人と最初の別れを告げ当時の帝國陸軍軍人となる状況を述べます。

以上

趣味漫筆(その二)

近藤純造

中学二年からは親戚の下宿に移ったがこの頃になるともっと高級?なカメラが欲しくなり名前は忘れたが名刺版の乾板蛇腹カメラを買い、下宿の押入れを暗室代りに使用し現像焼付を楽しんだものである。その頃柳新道と仁玉通が交叉するあたり佐々宗の筋向いあたりだったと記憶してるがカメラ屋があり、乾板や印画紙を買いにゆく度にショーウィンドウに飾られてある高級機を飽くことなく見つめては溜息をついたものである。このカメラで盛中の時計台や長町田んぼから岩手山を写したりしたものだが現像してみると写ってる筈の岩手山がうまく写ってないこともあった。フィルターなどというものを知らなかったことや乾板の染色性の問題もあったことと思う。盛中の高学年ともなると、家にあったカメラも公然と扱えるようになり、又幻灯機のレンズを利用して引伸しの真似事もしたし、真夏の押入れで汗だくで現像した乾板のゼラチン膜がメロメロにはかれてがっかりした事もあった。この頃になると安物の乾板カメラではあきたらず、ロールフィルムを使うカメラを欲しくなるのは当然で、当時人気のあった安物カメラの一つであるセミライラというのや又蛇腹を使わないハイカラなアルゼンとか豆カメラのミゼットなどを愛用したものである。このミゼットという豆カメラはがま口様のケースに入った可愛いカメラで現在豆カメラコレクターの間で人気のある代物で我が家のどこかに現存してる筈であるがまだ見付け兼ねている。

この時代のカメラはその大部分が外国特にドイツのカメラ、例えばツァイス・イコンの製品であるイコンタ、セミイコンタ、ベビーイコンタなどの狼真似であり又中には国産のボディに輸入したレンズやシャッターを組込んで売り出したり、沢山の会社から多くの機種を飽くまで販売しているが外国製品に比較すると材質とか工作精度に格段の差があり、故障し易く、現在では満足に作動する良品などは^希多くにお眼にかかれずこれ又コレクター諸氏の目標となっている様である。この頃はローライを真似たミノルタフレックスとかプリンスフレックスとかロールコンターなどの二眼レフもあったし又ライカを真似たレオタックスやキャノンからも各機45bの母体となった機種も出始め国産35ミ

リ機胎動の時代でもあったが忍びよる戦雲に消滅する時代のはじまりでもあった。この戦前のカメラで私の手許にあるのはセミパールとスーパーセミノルタだけであってパーレット、アルゼン、セミライラなどはどこでどうなったか行方不明である。

昭和14年旧制水戸高校入学時も古ぼけたセミライラとアルゼンとそれに斬新しくセミパールが加わって旅行季の中に入っていた。飛岡中学の名投手として鳴らした菅野先輩が野球部の主将をしていた関係で、野球のヤの字も知らない私も無理矢理入部させられてしごきを受ける羽目になるのであるがこの頃はカメラなるものは高い安いに拘遊びの要素というものが多く又中級スプリングカメラにしても生活費に比べて馬鹿高くしかも高校生でカメラをさげて歩いたりする奴は軟派視される風潮にあり、練習のきつい故もあってカメラをもて遊ぶひまも殆んどなく、しかもシーズンオフともなると柳暗紅燈の巷に出没する機会が多くなり、カメラは時計などと共にかつこうの質草となり、入学してすぐに馴染となった保坂質店の蔵の中にいる機会が多くなり、時々うけ出してはスナップ写真を撮るとる程度で青春時代の華ともいえる水高時代の記録が意外と少なく今もって甚だ残念の極みである。この頃は寮で歓迎ストームや寮祭などの行事があると出入りの門前写真館のおやじがオートプレスミノルタなるカメラを持ってきてあちこち写し希望者に写真を頒布するというやり方をしていたが、このカメラも当時非常に興味の対象のひとつであった。2年になって寮の委員をしていた関係でこのおやじと親しくなりオートプレスミノルタだけでなく写場の組立てカメラものぞかせてもらいソルトンジャンターの軽快なひびきにうっとりとしたものだったがその写真館にメッチェンがいて彼女を目当てに通っている連中も多く誤解をさける為に残念乍ら数回で訪問を打ち切ってしまった。水戸の街は当時盛岡よりも田舎でカメラ店をのぞいてもライカやコンタックスその他ドイツのカメラが少々申し訳程度においてあるに過ぎず、しかもドイツからの輸入も途絶えている関係で他はこれら海外カメラのイミテーションである国産カメラが並べられている位で、セミライラなどの初級者向きのカメラでも60円以上もし生活費に比べて非常に高価でありミノルタフレックスやハ

ンザキヤノンなどに至っては到底高嶺の花であった。野球部の友人で入学祝に当時の国産高級二眼レフであるロールコンターを買ってもらった人がいたがそのカメラは上下レンズの調整が狂ってるのが常にアトビンで我が愛機の安カメラよりも写りが悪く、大いに意を強くしたことがあったがこのロールコンターも我々のアドバイスによって質草と化してしまっただけであった。最近の資料によるとこのカメラは当時故障の多いことではNo1だったと記されている。又この壱庭球部の友人で親父が次のカメラマニアだった故でライカとコンタックスⅡaをもってあそんでいる人がいて始めてこれらの高級機を触らしてもらったが、国産カメラとは段違いの仕上げと感触にただただ溢れが出る丈でいつの日にかこのようなカメラをと心にきめていたのであるがまだ手許不如意でこれらのカメラを手中に出来ないでいる。当時我々の1月の生活費が一切合財ひっくり返って40円位の時代であり、これらのライカやコンタックスは、レンズにもよるが大抵1300～1700円位であったと記憶しているが、いかに高価な代物であったか御想像いただけると思う。当時、時々上京する機会があったがムーランルージュを視たり吉本屋あさりをするかたわらカメラ店も時々ぞいてみたものである。その頃は神田や本郷にも結構カメラ店があり陳列棚におでこをくっつけるようにして眺めてみるのだが何しろ弊衣破部・長髪にゴロムント高足駄といったスタイルなもので店員もうさん臭そうな目付でじろじろ眺めるし外国の高級品にはとうとう触らせてもらえず溢れが出る丈であった。東北大に入学した頃は質屋からうけ出した愛機の他に亡義兄の形見のレフレックスコレレという一眼レフ(6×6判)が愛機の仲間入りをすることとなった。この頃はすでに日本も第2次大戦の仲間入りをしており、感光材料も次第に不足勝らになっていったが、一番丁のカメラ屋のおやじと仲よくなり何かとフィルム類も廻してもらっていて撮影も楽しめた。このカメラ店では数個の貸箱を店内にもっており引伸機なども整備されており、大いに利用したのであるがどうしても印画の水洗時間が短くなり今残っている写真も変色した写真が多いようである。その頃水戸出身の仲間達と青葉城散策をして仙台市街をバックに記念撮影をしたことがあったが当時は軍機保護法というのがあり高所からの撮影は厳禁であり、その現場を憲兵にみつかりフィルムを没収され大目玉をくったことがあったが、フィルムをすり替えて手渡し

あとで大笑いしたことがあった。海軍軍医委託学生という身分が物をいって大事に至らなかつたが考えてみると仙台の街の航空写真位は当時アメリカさんとはとくに撮影済みであつたらうし全く馬鹿げた話である。こういったいきさつもあってカメラの方もいつしか飽きがきて愛機群も再び質草となることが多くなった。このレフレコレレも亡弟にあずけて戸塚海軍衛生学校に入ったのであるが、その後このカメラも消息不明となってしまった。恐らくアルコールに化けて亡弟の腹中を柔通ししたものや推察される。戦時中土浦海軍航空隊に配属された時レントゲンの下士官が集検用間接撮影用のカメラであるルビコンを使ってスナップをやっていた。このルビコンは小西六の製品でその後の名機コニカ1型の母胎となったカメラであり、カメラ好き



の私もこの下士官と仲よくなりひまさえあればカメラ談義に花を咲せていた。終戦になって復員する時にこのルビコンを失敬してやろうと狙っていたのであるが我々の方が復員が一番後廻しになってしまい、前述の下士官に先を越されたのが手にすることが出来ず全く残念であった。終戦後はしばらくの間は食うのに追われてカメラどころではなく、たまに閉市でフィルムを手に入れてもこれがとんでもない代物だったり、この頃の写真というのは殆んど残っていない。終戦後の我国のカメラ工業も戦前からのストック部品などをもとに細々と再起のきざしをみせたが国内需要には程遠く進駐軍のPX用に向けられていた。昭和21年頃になると先ずスプリングカメラなどの生産が再開されたが生活に追われる安月給とりとしてはこれとても安々と手に入れることが出来ないう状態であった。昭和22年頃からはつばつと高級カメラであるキャノンⅡS、ミノルタ35、レオタックスDⅢなどのフォーカル機が出てきたし、又マイクロとかスナッピーなどの豆カメラもみられるようになってきた。昭和23年に長女誕生。その後間もなく小西六からコニカⅠ型という手頃のカメラが発売されカメラマンを狂喜させた。これは前述のルビコンを改良発展させたものでコダック式接点内蔵ヘキサレンズの鮮鋭さで抜群の人気を集め高級機を買えない我々にとって、かっこうのカメラであった。

一戸病院に勤務していた私も、乏しい月給の中から25,000円もするこのカメラを特殊のルートを通して免税扱いで17,000円位で入手し、子供の成長記録をとり始めたのである。当時は漸らく敗戦の痛手から立ち直り大小有名無名のカメラ会社が種々雑多なカメラを作りはじめたが故障も可成り多く、この頃のカメラで健康体で残っているカメラは極めて少なくコレクターの間でもひっぱりだこである。(次号につづく)

落 餓 鬼

T、M

○ のどかな春の庭さきで、耳の間こえない七十ばあさんが、ツルベ井戸で水汲みをしていただ、礼義正しき若者が、「ばあさん水くみが、元気いいなや」と挨拶したど、ばあさん「なに ウン、ウン、わがった、今にさせるがらな」とヘッタど、〈たしか水汲みだと思うが。〉

- 仕事すんで、夕はんすんで、夜になった。しばらくして、八十ぢいさんが、もようしたど、「ばあさんどうだ」とゆすったど「ぢいさんなんだでば」ばあさんが言ったど。「ばあさんやあれだでば、あれ」ばあさん困のない口をモグモグさせで「それだばあした卵二つも食べてからにしてけれ」ウニエ今だ！「ノミがうるさくねえばかりでもいい」とぢいさんヘッタそうな。(ヘッタ=言った)
- ろくに酒ものめないぢいさんで、おどりならなんでもこい。ねん仏でも、なにわ面でもなんでも舞ってやる、ウツだと思ったらウナッチみる、ただな、エヘンとブーだけはおどれないじや、と言った人が本当にいました。のどかな里です。

編 集 後 記

北国の野や山はようやく春を迎え、若芽萌え出で生気を呼び戻した様です。

第1号は盛り沢山で題字、カットの紹介をしまして失礼しましたが、題字は高橋孝先生の揮毫したものですし、チャグチャグ馬っこの画は長谷川先生のものでした。両先生に感謝申し上げます。表紙の岩手山の写真は宮村が写したのですが春がすみの為か山の格好が出ず残念でした。今回の表紙の写真は近藤純造先生のもので、尚表紙には各町村の名所とか風景とかをのせる予定でありますので画或は写真等をお送り下さい。印刷には白黒の方がよいとのこと。

趣味漫筆、近藤先生のカメラの博識にはおどろかせられます。

今回より上野会長の回顧録と言いましようか自叙伝と言いますか連載で始まります。

この頃日本人にはユーモアがないなどと言われて居りますのでらく書きをのせました。おしかりを受けるかも。

重ねてのお願いですが会員の先生方どしどし御投稿願います。(M)

会員の入会・退会・異動等

【入会】

(平成27年7月1日現在)

入会月日	所属施設名	氏名	前所属施設名
平成26年 11月1日	東八幡平病院	藤澤 洋一	大館北秋田医師会より (B会員)
4月1日	ものがたり診療所つむぎ	松嶋 恵理子	盛岡市医師会より (A会員)
4月1日	葛巻病院	佐々木 崇	盛岡市医師会より (A2会員)

【退会】

(平成27年7月1日現在)

退会月日	所属施設名	氏名	備考
1月1日	東八幡平病院	成島 忠勝	退職
2月2日	矢追医院	矢追 博美	死亡退会
3月31日	松尾診療所	伊藤 昭治	廃業
3月31日	葛巻病院	山本 雅彦	退職
3月31日		秋山 法宏	退会

会員数の状況

7月1日現在の会員数 84名

編 集
後 記

今年もようやく医報の発行が出来ました。投稿
頂いた先生方には感謝申し上げます。今回の表紙
の写真は森先生の作品です。

岩手郡医報のバックナンバーは興味深く読ませ
て頂いています。その時代の記録を残すことは貴
重なことだと思います。

投稿、写真、絵画など何でもお寄せ下さい。

北上 明
